

短期集中リハビリ教室「きずなチャレンジスクール(11期)」参加者募集!

リハビリ専門職等(理学療法士、言語聴覚士、作業療法士、管理栄養士、歯科衛生士)による、介護予防のための短期集中リハビリトレーニング教室です。心身の機能を改善し、「健康長寿」を目指しませんか。

期日▼11月8日(金)から3月14日(金)までの金曜日(11月22日(金)、12月27日(金)、令和7年1月3日(金)を除く、全16回)

時間▼午前9時30分～11時30分

場所▼総合福祉センター「絆」

対象▼村内在住の65歳以上で▽介護保険の「要支援1」「要支援2」の認定を受けている▽基本チェックリストで生活機能の低下が認められると判定された「事業対象者」——のいずれかに該当する方(令和5年度に実施したスクールの参加者を除く)※「基本チェックリスト」は保険課

(役場行政棟1階)、北部地域包括支援センター(総合福祉センター「絆」内)、南部地域包括支援センター(特別養護老人ホーム オークス東海内)で実施しています。

定員▼先着15人程度

参加費▼無料

申し込み・問い合わせ▼9月30日(月)から10月25日(金)まで(土・日曜日、祝日を除く)に、電話で総合相談支援課地域包括担当(総合福祉センター「絆」内 ☎287-2525)へ申し込みください。

ふるさと歴史
—自然を探して—

驚異的な繁殖力のニワウルシ

ニワウルシはニガキ科の植物で、名前は、ウルシに似た葉を持ち庭などに植えられることに由来します。明治時代に中国から入ってきました。成長が早く、高さが10～20メートルになることもあって、街路樹や庭木として植えられました。雄株と雌株があり、雌株にはカエデに似た実をつけます(写真①)。

ヤマウルシやヌルデ(ともにウルシ科)に似ていますが、ニワウルシの小葉は特有の匂いがあり、先端がとがっています。葉は複葉といい、数枚の小葉が集まって一枚の葉をつくっています(写真②)。

ニワウルシは生態系に被害を及ぼす危険性があり、環境省の「生態系被害防止外来種リスト」に挙げられています。県西や県南地区では10～20年前から道路脇や空き地で目立つようになり、駆除の必要性が指摘されていました。

この植物の繁殖力の強さの秘密は次のようなことが原因と考えられています。
第1には、翼に包まれた種子は風で飛ばされて遠くまで移動できること。
第2には、親木を伐採しても地下茎でつながって



【写真① ニワウルシの雌株の実】



【写真② 左から、ヌルデ、ヤマウルシ、ニワウルシの葉】

る新苗で増えること。村内のある旧家では、親木を伐採したところ、瞬く間に周囲が新苗で覆われてしまいました。
第3には、アレロパシー効果(他の植物の生育を抑制する物質を生産すること)により、付近の植物の生長を抑えてしまうこと。
このように「向かうところ敵なし」のニワウルシですが、伐採以外に駆除の方法はないようです。村内では、村松や石神内宿の空き地、のり面、伐採跡地などで確認されており、早めの伐採が必要です。ほかにも、樹木の外来種であるトウコマツナギ、ハリエンジュ(ニセアカシア)、イタチハギ、トウネズミモチ、キササゲなども村内各地で分布を拡大しています。

歴史と未来の交流館副館長(博物館長)

安嶋 隆